

<試験的実施ルールについて>

競技規則についてワールドラグビーは世界的試験的実施ルールに関する通達を出し8月1日以降に開始される試合・大会に適用する通知をしました。日本協会もこれを受け7月19日付の通知が出されました。以下に原文を示します。[○印文章]

これを受けヒーローズカップでは全国運営委員会で検討したところ今年度の14回大会から採用することといたします。_()内はミニにおきかえたもの ●は加筆注釈

○50 : 22

ボールを保持しているチームが自陣の内側からボールを蹴って相手側の22メートルラインより内側で間接的にタッチになった場合、その後のラインアウトではそのチームがボールを投入する。50 : 22を行うために、ボールを防御側の陣内にパスバック、またはキャリーバックすることはできず、防御側の陣内からフェーズが始まらなければならない。(ゴールラインと10mの間でタッチに出た場合)

○ゴールラインドロップアウト

インゴールにおいてボールがヘルドアップとなった場合、インゴールにいる攻撃側のプレーヤーによるノックオンがあった、または、攻撃側のキックをディフェンダーが自陣のインゴール内でグラウンディングしたこととなり、ゴールラインに沿った任意の地点からのゴールラインドロップアウトでプレーを再開する。

- キックは5m飛ばなければならない。
→達しない場合はキックした地点での5mスクラムかキックのやり直し
- キックが直接タッチに出た場合はキックした地点での5mスクラム、5mラインアウト、キックのやり直しの選択となる。
- 相手チームはゴールラインから5m以内に位置することはできない。

○フライングウエッジ

フライングウエッジの定義を見直し、3名があらかじめバインドしているミニスクラムに対して制裁を科す。

- PKとなる。コールは「フライングウエッジ」

○単独のプレーヤーによるラッチング

コンタクトの前に1名だけプレラッチングをすることを認めるが、そのプレーヤーはファーストアライビングプレーヤーの要件のすべて(特に立ったまましていること)に従わなければならない。

- ラッチングとはバインドしていること。プレラッチングとは相手とコンタクトする前にあらかじめラッチングすること。
- 手で押す、つかむことはラッチングにならない。ラッチングして進むときにはボールキャリアーが先頭であること。反すればPK コールは「オブストラクション」
- ラッチングしていたプレーヤーがオーバーザトップ、シーリング(倒れてボールをふさいでしまう)にならないようにすること。反すればPK コールは「オーバーザトップ」「シーリング」

○クリーンアウト/ジャッカラーの安全

下肢を狙った、または、下肢に衝撃を与えるようなクリーンアウトに制裁を科す。

- PK コールは「危険なプレー」

画像をワールドラグビーHPで確認してください。

<https://www.world.rugby/the-game/laws/global-law-trials>